

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970400170		
法人名	医療法人 景雲会		
事業所名	グループホームあずさ		
所在地	笛吹市春日居国府436		
自己評価作成日	平成26年1月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成26年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・入居者は一人ひとりのペースでホーム内でゆったりと過ごされている。 ・近隣の方々と交流の場を少しずつ広げて行く努力をしている。 ・館内、室内に季節を感じさせる工夫をした飾り物も多く、利用者の心を和ませる環境づくりをしている。 ・広いろはびりガーデンもあり、外気浴をしたりして気分転換を図っている。 ・5段階評価からなるスピーチロックの自己評価のチェック表を作り、職員への意識付けを図っている。 ・月1回の避難訓練、夜間想定訓練、地域の防災訓練を実施し、入居者が避難できる方法を職員が、身につける努力をおこなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>同法人の病院の敷地内に2ユニットの事業所が併設され、中庭は病院の患者もリハビリとして利用し、ホームの入居者との交流の場ともなっている。前回の検討項目の中で、運営推進会議の回数を増やすことを改善し、地域との関わりも順調に築かれている。また市の職員から要請もあり、夜勤体制が2名となった結果、夜間を想定した避難訓練も実施することができ、利用者の安全や職員の安心に繋がった。また2月の大雪は山梨県の観測史上一番で、他県に通ずる道が閉ざされ食糧不足が懸念された折、市より食糧事情の問い合わせがあり、非常災害時の市との連携が実践された。また利用者や家族にとって一番の心配は医療面のことであるが、緊急時や重度化し看取りが必要な場合、併設の病院長との対話が持たれるのは家族にとって安心につながっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームあずさ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を入りに掲示し、職員は理念をネーム裏に記入し、いつでも見て実践出来るようにしている。	理念を入りに掲示し、職員は理念をネーム裏に記入し、いつでも見て実践出来るようにしている。	地域との接点を視野に入れた理念を掲げ、防災訓練などの行事に参加し、近隣との触れ合いを大切にしている。日常の介護に当たるうえでも、管理者は職員に理念に基づいた指導を行っている。職員はネーム裏に書かれた理念をいつも見て実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	「あずさ便り」を近隣へ配布している。地域の行事(どんど焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	「あずさ便り」を近隣へ配布している。地域の行事(どんど焼き、お祭り、防災訓練)に参加している。	地域の春祭りには50人程の子供御輿が訪れ、利用者はお菓子の差し入れを行うなど交流の場となっている。また夏祭りは近所の方々が来所して焼きそばのお手伝いもある。近隣に「あずさ便り」を届けホーム内の様子をお知らせしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣に「あずさ便り」を配布したり、地域の行事に参加し、認知症の人への理解を深めて頂いている。	近隣に「あずさ便り」を配布したり、地域の行事に参加し、認知症の人への理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの状況、入居者の様子など活動報告し意見、助言、要望、指導をして頂き、地域行事に積極的に参加している。	ホームの状況、入居者の様子など活動報告し意見、助言、要望、指導をして頂き、地域行事に積極的に参加している。	前回の外部評価時の検討課題であった、運営会議の回数は、2か月に1回の会議に改善できた。利用者はお祭りやどんど焼きなどの情報を得て地域と交わっている。介護保険課の職員の参加があり、市からの情報も得ることができ、夜勤体制が1名から2名となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険、地域包括支援センター職員との連絡は行っている。	介護保険、地域包括支援センター職員との連絡は行っている。	市には退居者がした場合入居者の相談、また包括支援センターに困難事例など相談している。観測史上初めての大雪時、市から食糧事情を訊ねる電話があるなど多面で情報交換がされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入り口がロック式になっているが、日中は鍵が閉まっているが必要時解除している。職員は身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を自己評価で毎日記入している。	職員は身体拘束をしないケアを実践している。スピーチロックに当たる言葉の一覧表を自己評価で毎日記入している。	入口はロック式だが、ホールからは外の庭に自由に出入り、洗濯物を干したり散歩などもできる。スピーチロックに対しては職員自らの気づきを5段階方式で自己評価し、カンファレンス時に個々の反省に繋がる評価が話し合われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。	職員は虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について研修会市町村連絡協議会に出席し研修を受けている。	権利擁護制度について研修会市町村連絡協議会に出席し研修を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、十分な説明を行い、また家族等からの不安や疑問点を尋ね、理解納得を得ている。	契約の際、十分な説明を行い、また家族等からの不安や疑問点を尋ね、理解納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行うと共に、面会時に意見、訴え等を聞き、要望に沿うよう努力している。	アンケートを行うと共に、面会時に意見、訴え等を聞き、要望に沿うよう努力している。	家族から夜勤2名に増やしてほしい要望が出され、市からの要請と重なり実現した。また職員の介護に対する要望は、職員間で介護方法を見直し、介護の質を上げる取り組みを行なった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時に職員の意見を傾聴し、意見の反映に勤めている。それ以外にも個々に気軽に相談している。	カンファレンス時に職員の意見を傾聴し、意見の反映に勤めている。それ以外にも個々に気軽に相談している。	職員の勤務体制を、利用者の安全確保のためにと上司に提案した結果、市の介護保険課の要請もあり、2名の夜勤体制となり、夜勤体制を重視することとした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考えてくれていると思う。	考えてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修には全員参加し、外部研修についてはスタッフ全員が受け入れられる様考慮している。法人の申し入れにより、質の向上を目指すため、研修が受けられるよう、勤務表を組んでいる。	法人内の研修には全員参加し、外部研修についてはスタッフ全員が受け入れられる様考慮している。法人の申し入れにより、質の向上を目指すため、研修が受けられるよう、勤務表を組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会研修に参加し他事業者と交流している。同業者の活動、取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。	グループホーム協会研修に参加し他事業者と交流している。同業者の活動、取り組みを聞き、サービスの質の向上に努めている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること不安な事に耳を傾け本人が安心できるような関係づくりに努めている。利用者との関わり合いの中で感じ取ったり聞いたりしたことを情報として集め、関係作り役に立たせ安心できるよう努めている。	本人が困っていること不安な事に耳を傾け本人が安心できるような関係づくりに努めている。利用者との関わり合いの中で感じ取ったり聞いたりしたことを情報として集め、関係作り役に立たせ安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、面接時、家族から不安な事や要望を聞きながら関係づくりに努めている。	入居時、面接時、家族から不安な事や要望を聞きながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の両方の要望、困っていることを聞き、まず必要なことは何かを見極めている。	本人や家族の両方の要望、困っていることを聞き、まず必要なことは何かを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護しながら喜怒哀楽を共にし、本人は何を望んでいるのか、暮らしを共にする関係を築いている。	介護しながら喜怒哀楽を共にし、本人は何を望んでいるのか、暮らしを共にする関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人の状況、状態等を説明し面会の少ない家族には面会及び電話等増やし行事に参加していただける様声かけをし、本人を支えていく関係を築いている。	面会時、本人の状況、状態等を説明し面会の少ない家族には面会及び電話等増やし行事に参加していただける様声かけをし、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達が来た時又きてくれるように、職員は声を掛けています。美容院、スーパー、お墓参り、実家等に家族が付き添い外出する利用者や年末年始に外泊する利用者もいる。馴染みの関係が途切れないように事業所でも支援に努めています。	家族や友人が来た時、又来てくれる様声かけをしている。居室に自宅で使っていたタンスや写真を持ってきていただいたりしている。年末年始には外泊する利用者もいる。	近所の自治会の行事に参加することで、なじみの関係が築かれ、面会に来て下さるようになった。馴染みの美容院や墓参りなどは、家族の協力があって関係を継続している。また、電話で娘さんの声を聴けるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の生い立ちや性格を掴み、行動、レクリエーション等を通し、利用者同士の間に入り関係作りに努め、お互いに支え合えるような支援に努めている。	行事やレクリエーション等を通し利用者同士の間に入り関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		本人、家族の必要に応じ、相談や支援が出来るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時センター方式シートを作成し、一人ひとりの思い、希望、意向の把握に努めている。	入居時センター方式シートを作成し、一人ひとりの思い、希望、意向の把握に努めている。	介護者は利用者の不安や苦痛、嬉しいこと等の心身の情報を、センター方式で把握している。また家族や本人の意向を日々の中で聞き取り、一人ひとりの趣味や好きなものを探り、絵、歌、トランプ等をレクリエーションに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人との日頃の会話から、生活歴、暮らし方等の把握に努めている。	家族、本人との日頃の会話から、生活歴、暮らし方等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスで、全員が意見やアイデアを出して共有している。	各ユニットでカンファレンスを行い、月初めに合同カンファレンスで、全員が意見やアイデアを出して共有している。	利用者や家族の要望を入居時や面会時に聞き、介護者が生活の様子を介護記録に記録し評価して、短期、長期目標の生活援助計画を作成している。カンファレンスは職員全員で意見を出し合って検討している。家族に説明もしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に各勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。	ケア記録に各勤務者が記録しており、必要な情報は申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容院への送迎や購入したい物があれば一緒に買い物に付き添っている。また、急変時に医療が必要な時は付き添っている。	本人や家族の状況やニーズに対応し、移動美容院への送迎や購入したい物があれば一緒に買い物に付き添っている。また、急変時に医療が必要な時は付き添っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの暮らしを支え、本人の力を発揮して、安全な暮らしを楽しめるような支援をしている。	一人ひとりの暮らしを支え、本人の力を発揮して、安全な暮らしを楽しめるような支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の家族の希望を重視している。希望があればかかりつけ医に家族が連れて行く。薬等は当病院にある場合は家族の希望で変えることもある。緊急の場合は職員が付き添って行くか通常は家族に連絡して来てもらっている。	入居時の家族の希望を重視している。希望があればかかりつけ医に家族が連れて行く。薬等は当病院にある場合は家族の希望で変えることもある。緊急の場合は職員が付き添って行くか通常は家族に連絡して来てもらっている。	家族の付き添いで希望するかかりつけ医に受診し、利用者の様子、薬、受信結果の(熱、食事チェック、水分補給)など、かかりつけ医からの指示を家族から聞いて、情報を共有し対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職に報告し、日常的に関わってもらっている。必要に応じ受診している。	看護職に報告し、日常的に関わってもらっている。必要に応じ受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院等サマリー記入や報告を行い、安心して治療できるように、また、病院関係者と情報交換を行っている。	入退院等サマリー記入や報告を行い、安心して治療できるように、また、病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえながら、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時にマニュアルに沿って同法人の病院で受診するか、対応できない場合は主治医の指示で他の病院へ移している。	本人や家族の意向を踏まえながら、医療が必要な時以外は看取りも可能な事を入居時に説明している。急変時にマニュアルに沿って同法人の病院で受診するか、対応できない場合は主治医の指示で他の病院へ移している。	「重度化した場合における対応に係る説明書」を作成し、入居時にホームでできる事を家族に説明している。ホームでの最後を望んだ利用者を家族と共に看取りをおこなった。また併設の病院長との対話も家族の安心につながっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成している。内外の研修に参加し、応急手当、初期手当での訓練を受けている。	急変や事故発生時に備え、マニュアルを作成している。内外の研修に参加し、応急手当、初期手当での訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を実施し、入居者が避難できる方法を職員が身につける努力を行っている。地域の防災訓練に参加している。夜間を想定しての非難訓練マニュアルを作成し、実施している。	月1回の避難訓練を実施し、入居者が避難できる方法を職員が身につける努力を行っている。地域の防災訓練に参加している。夜間を想定しての非難訓練マニュアルを作成し、実施している。	前回の検討課題となっていた夜間想定訓練は、夜勤者が2名体制となり、マニュアルを作成し避難訓練を実施した。ホーム内の見取り図に避難経路を矢印で示し、廊下に張り付けてある。初期消火の方法は1階、2階とも実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重している。本人の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉遣いや語調には注意し、スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月カンファレンス合っている。	一人ひとりの人格を尊重している。本人の誇りやプライバシーを損ねないよう、言葉遣いや語調には注意し、スピーチロックの自己評価を毎日行い、毎月カンファレンスで話し合っている。	スピーチロックの5段階評価表を毎日自己評価することで、工夫した言葉を使うよう成果が表れている。排泄時や入浴時などは利用者のプライバシーに配慮した方法で支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ話かけを行いコミュニケーション作り、信頼関係作りにも努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めている。	声かけ話かけを行いコミュニケーション作り、信頼関係作りにも努め、本人の思い、希望を表出できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	本人の出来る事を行ってもらい、本人の声を常に聞き、本人のペースに合わせた生活を送っている。	本人の出来る事を行ってもらい、本人の声を常に聞き、本人のペースに合わせた生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選べる方は任せているが、出来ない方には介護職員が出来るようにお世話している。整容、洗面、整髪を声かけ、見守りで行っている。出来ない方には介護員が介助している。	本人が選べる方は任せているが、出来ない方には介護職員が出来るようにお世話している。整容、洗面、整髪を声かけ、見守りで行っている。出来ない方には介護員が介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作りへの参加、食事整備、片付けは出来る方には働きかけ、一緒に行っている。職員1名と一緒に食べている。	片付けは出来る方には働きかけ、一緒に行っている。職員1名が同じ物を食べている。	台所から調理をする音やにおいがして、一人ひとりの食事がお盆に分けられ配膳がされる。職員は呑み込みの悪い人や、自分で食べられない人のサポートをしている。職員1名が同じテーブルで食事をしている。	食事は利用者にとって力の発揮や参加、他の利用者や職員との関係作りなど大切な位置にあります。「食」の一連の流れの中に、職員が言葉を掛けながら利用者の出来る事を見出し、前向きな気持ちを引き出した場面づくりを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居時、好き嫌い等を聞いており、食事量や水分量について、1日を通して摂取出来るように支援している。利用者によっては形態を工夫している。	食事量や形態を一人ひとりに合わせて出している。水分も1日を通して摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の歯磨きの声かけ、見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないよう努めている。義歯は週1回洗浄剤を使用している。	朝夕の歯磨きの声かけ、見守りを行い、口の中の汚れや臭いが生じないよう努めている。義歯は週1回洗浄剤を使用している。出来ない方には介護員が口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄に心掛け、失禁のある場合時間誘導し声かけなどを行い、自立に向けた支援を行っている。個人のチェック表を記入して本人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。	トイレでの排泄に心掛け、失禁のある場合時間誘導し声かけなどを行い、自立に向けた支援を行っている。個人のチェック表を記入して本人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。	夜間帯はオムツ対応でも時間を見て、トイレでの排泄につなげている。リハビリパンツと尿とりパットの使用者であっても、立位のできる人はトイレ誘導をするよう職員全員で支援している。ホーム内に臭いが無い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量に配慮している。排泄がない場合は期間において医師より処方された下剤を服用している。	食事量や水分量に配慮している。排泄がない場合は期間において医師より処方された下剤を服用及び看護師による浣腸摘便を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴をする人、週2~3回入浴する人、入浴を拒否する人等、個々の希望に沿った支援をしている。	週2~週4回体調を考慮し入浴されている。併設した病院内の機械浴に週1回~週4回入浴されている人もいる。	毎日入浴する人が2人、多数は週に2~4回の人が多い。拒否する人の場合は、言葉を工夫して誘導し、週に2回職員2人で介助している。職員は見守りに徹するが、背中、足の指など洗えないところを手助けしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(あずさ1F)	ユニット名(あずさ2F)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間照明、騒音等に注意し、安眠する事が出来る様支援している。また、その時の状況に応じ休息してもらっている。	夜間照明、騒音等に注意し、安眠する事が出来る様支援している。また、その時の状況に応じ休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事務所に使用している薬の目的、用法用量について、一覧表を貼っている。本人のおくすり手帳等がある。	事務所に使用している薬の目的、用法用量について、一覧表を貼っている。本人のおくすり手帳等がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に合わせた役割を行ってもらい、達成感を持ってもらうように支援している。	一人ひとりの力に合わせた役割を行ってもらい、達成感を持ってもらうように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、外気浴等レクリエーションにて実施している。普段行けない場所に行事等で、皆と一緒に出かけたり、家族と共に外出したり、出掛けられるよう支援している。多数で買い物にゆくのではなく少数で順番に行っている。	散歩、外気浴等レクリエーションにて実施している。普段行けない場所に行事等で、皆と一緒に出かけたり、家族と共に外出したり、出掛けられるよう支援している。多数で買い物にゆくのではなく少数で順番に行っている。	広い中庭で、犬と一緒に外気浴や散歩を日々行っている。また中庭は併設の病院にリハビリに通う利用者との触れ合う場所でもある。年に数回、外食会、ドライブ、紅葉見学など季節ごとに行事を企画し楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣い程度を管理している。本人が使いたい時渡し、小遣い帳に記入して出来る方には使えるような支援をしている。	お小遣い程度を管理している。本人が使いたい時渡時に渡し、小遣い帳に記入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の申し出により、自宅へ電話している。また、手紙を書ける方には、書いて投函してもらっている。	本人用の電話を本人管理の元、所持使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を取り入れた歌絵などを貼り、植木等の鉢、花を飾ったりし、居心地よく過ごせるように工夫している。	生活感、季節感を取り入れた歌絵などを貼り、植木等の鉢、花を飾ったりし、居心地よく過ごせるように工夫している。	1階に新聞受け箱が置かれて自由に新聞を読める。壁には利用者が作った卵の殻で作成した花、字が飾られている。利用者が可愛がっている犬は、夜は居間の小屋の中に入る。2階は、利用者が書いた歌詞や書が貼られている。テレビの前のソファは利用者の団樂の場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファ、椅子等を置き思い思いに過ごせるような居場所作り心掛けている。	共有空間にソファ、椅子等を置き思い思いに過ごせるような居場所作り心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家族に使い慣れた家具等を持ち込んでくれる様伝えている。	入居時、家族に使い慣れた家具等を持ち込んでくれる様伝えている。	利用者の安全を守るため馴染みの家具の配置が難しい部屋もあるが、本人が居心地よく暮らすために工夫がされている部屋には、仏壇、タンス、ソファ、が配置されている。畳のベッドの他にリクライニングベッドを使用している利用者もあり、工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の出来る事を行ってもらい、身体機能を維持し、安全な生活を送れるように努めている。	本人の出来る事を行ってもらい、身体機能を維持し、安全な生活を送れるように努めている。		